



令和4年度

芸術文化学部 芸術文化学科
(募集区分b)

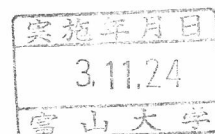
特別選抜

学校推薦型選抜 帰国生徒選抜 社会人選抜

小 論 文

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 問題は、全部で4ページ、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚である。試験開始の合図があつてから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。
氏名を書いてはいけない。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- 5 配付された問題冊子および下書用紙は、試験終了後、持ち帰ること。



次の文章は、画家・千住博による芸術論二編である。文章を読んで後の問いに答えなさい。

I

ピアノとバイオリンの合奏について考えてみましょう。

ピアノはピアノで演奏していればいい。バイオリンはバイオリンで演奏していればいい。なぜピアノとバイオリンが一緒に演奏するのか、と考えてみたら本当はおかしな話です。

ピアノとバイオリンは、用途もちがえば性格もまったくちがう。生まれも育ちもちがうし、だいたいお互いに相手のことを知らずに生まれた楽器たちです。音の大きさもちがう。片一方は力いっぱい弾けば本当に遠くまで音が響く、それがピアノです。バイオリンはどんなに力いっぱい弾いても、その音が広がる範囲には限界があります。

このふたつが合奏するということは、どういうことなのか。お互いがお互いの音を聴きあうことによって、お互いの引つ込み方、お互いの強調の仕方、お互いの譲り合い、このようなことを考えることによって、そこに調和が生まれる。そして、それぞれひとつずつの楽器が演奏していたのでは到達できなかったような、とても美しい音を奏でることができると。

これがピアノとバイオリンの合奏なのではないでしょうか。つまりピアノとバイオリンが合奏するということは、敵と味方みたいなまったく異なる出自のふたりが必ず折り合いをつけることができ、なおかつ美しいハーモニーを奏でることができると、ということをお互いに教えてくれているのではないのでしょうか。

同じように、白と黒の絵を描くということを考えてみましょう。白地に黒の絵を描くということとはどういうことなのか。

ただただ白い画面を黒くすればいいというわけではないですよね。白と黒の一番いいハーモニーが奏でられたとき、一番いいバランスがとれたときに、その作品はすばらしい芸術作品になるのではないのでしょうか。

つまりお互いが相手とのバランスや調和を考えることによって、そこに美しいハーモニーが奏でられる。このようなことを教えてくれるのが白黒の作品なのです。

そこから発展させて考えると、オーケストラなどは、西洋にあるたくさん楽器がいちにのさんで音を出しますね。

こんなもの、めっちゃくちゃになると思っています。中学や高校の部活で勝手にトランペットをふいたり、ギターを弾いたりしていると、それはもううるさいものですよ。

しかし、それが実に見事なハーモニーを奏でる。まん中に指揮者がいて、すべての音のバランスをきちんと調整することによって、それぞれの楽器がひとつずつでは表すことができなかったような美しい音色が響きます。

美術も同じ。二十色の色を使うということは、一枚の絵の中で二十の色が絶妙なハーモニーを奏でることができるといいます。お互いの色がお互いの折り合いをきちんと考えることによって、必ず調和がとれる。そういうことをわたしたちに教えてくれるのではないのでしょうか。

つまり、芸術というのは平和創造の知恵です。仲良くやる知恵なのです。

II

芸術とはイメージネーションをコミュニケーションしていくこと。

つまり、自分の考えをなんとかして伝えたい、という行動が生むものなんです。それも相手と仲良くやりたい、という大きな目的がその根本に存在してはじめて、そこに成立するのです。

考えてみると、それはアルタミラの時代からずっと同じなのです。アルタミラの壁画からは、一万五千年後のわたしたちが見ても、当時壁画を描いた人たちが、どんなコミュニケーションをしようとしていたのか、どんな夢をもっていたのか、どんなことを想像していたのか、ということが伝わってきます。

人々は茶色い色で牛を描いていたわけです。牛というのは、昔から茶色い色だったし、その茶色い色を忠実に描こうということとで、一生懸命悪戦苦闘している。そういう試行錯誤もわたしたちに伝わってくるのです。

そこでひとつ感じる必要があります。

例えば芸術作品の感動とは、いったいどういうことなのだろう。これは色がきれいだから、形がきれいだから、ということではないのです。

では、人はどういところで感動するのかわかるか？

芸術というのはコミュニケーションであり、なんとかして自分の思いを伝えたいという心の表れです。だとしたら、芸術に感動するというのは、そのなんとかして伝えたいとする心意気に対する感動なのではないでしょうか。

何かをうまく描きました、ということでは人は感動することはないのです。うまければうまいに越したことはないけれども、もっと大切なことは心が伝わるかどうかです。なんとかして伝えようと思つて夢中で描いている、その気持ちが相手に伝わったときに人は感動するのです。だからヘタでもまったくかまいません。

イメージネーションをコミュニケーションする。それは、ひとりでは生きていけない人間にとって、絶対的なことなのです。そして美という生きる力の感覚を鍵穴にしてわたしたちに本能として与えられたこと、それが芸術なのです。

芸術的発想とは人間的発想と同義語です。芸術とは仲良くやる知恵。芸術とふれあつて、自分と異なる考え方の人を認め、いろいろな意見があるのだなということを知り、しかしわたしたちはみな同じ人間なのだ、ということにも気付く。そして他人のよろこびを自分のよろこびとし、他人のかなしみを自分のかなしみとし、ともにかなしみ、心を通わせることの大切さを知る。そんなすばらしい大人になって下さい。

(千住博『わたしが芸術について語るなら』から)

問一 筆者が考える芸術のあり方について、二五〇字程度で説明しなさい。

問二 筆者の意見をふまえ、イメージネーションとコミュニケーションのよい関係について、具体的な事例をあげながら、あなたの考えを五〇〇字程度で述べなさい。なお、取り上げる事例の分野は問わない。

見本

下書用紙